

第37回 神奈川県美術展



2001

第37回 神奈川県美術展

1期展／工芸 書 写真 平成13年9月18日(火)～9月30日(日)

2期展／平面 立体 平成13年10月3日(水)～10月14日(日)

会場：神奈川県民ホールギャラリー

主 催／神奈川県民ホール [(財)神奈川県芸術文化財団]

神奈川県

神奈川県美術展委員会

(厚木巡回展のみ)

厚木市

厚木市文化会館事業協会

(座間巡回展のみ)

(財)座間市スポーツ文化振興財団

座間市立市民文化会館

厚木巡回展／平成13年10月17日(水)～28日(日)

会場：厚木市文化会館展示室

座間巡回展／平成13年11月14日(水)～25日(日)

会場：座間市立市民文化会館

(ハーモニーホール座間)

ごあいさつ



今年も、数多くの優れた美術作品の出展を得て、第37回神奈川県美術展を開催できますことを、主催者の一員として大変嬉しく思います。

神奈川県美術展は、神奈川にゆかりのある人ならどなたでも出品できる公募形式の美術展として、昭和40年の第1回展開催以来、芸術家を志す多くの方々に作品発表の機会を提供してまいりました。また、趣味として創作活動に取り組むアマチュア作家の方々にとっても、この美術展への入賞、入選は大きな励みになっていると伺っています。

今回は、平面、立体、工芸、書、写真の各部門を合わせて1,704点もの応募作品の中から、厳正な審査を経て選ばれた入賞、入選作品547点が展示されています。いずれ劣らぬ秀作ぞろいであり、ご来場の皆様に新鮮な感動を呼び起こしてくれる素晴らしい展覧会になるものと確信しています。

21世紀を迎え、心の豊かさへのニーズがますます高まる中で、神奈川県では、誰もが身近なところで、美術や音楽などを楽しみ、それぞれの個性に応じた多彩な文化活動を行うことができる環境づくりに取り組んでいます。この美術展の開催を通して、県民の皆様の芸術文化活動が一層活発になり、個性豊かな地域文化の発展の契機となりますことを願ってやみません。

本美術展の開催にあたり、ご指導、ご協力いただきました関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。ご来場の皆様におかれましては、新進美術家の力作の数々を存分にご堪能いただければ幸いに存じます。

平成13年9月

神奈川県知事 岡 崎 洋

ごあいさつ



昭和40年にスタートした神奈川県美術展は今年で37回を迎えることになりました。これまで若手美術家の登竜門として、また数多くの美術家を輩出してきた県内随一のコンクールとして、ながく本県美術界に貢献してきました。

今回は、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に950人、1,704点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、487人、547点の作品が選ばれました。

本県は美術の盛んな環境を備えており、また近年の生涯学習熱の高まりとも相呼応して毎年出品点数が増えており、選ばれた作品はいずれも高い水準に達しております。

応募された皆様の心意気に深く感謝するとともに、これからもこの県美術展に対して熱い眼差しを向けてくださることを祈念します。

また、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、県美術展の運営に専門的な立場からアドバイスをいただいた県美術展委員の皆様には厚くお礼申し上げます。

平成13年9月18日

神奈川県美術展委員長 上野 豊

1 期展

工芸・書・写真

受賞作品目録

《工 芸》	大 賞	羽 鳥 恵 子	横浜市	彩泥象嵌鉢
	準 大 賞	鷹 野 の ぶ 子	大和市	道草
	特 選	小 林 雅 子	鎌倉市	輝く eye
	特 選	清 水 晴 子	横浜市	ゆりの木の黄葉
	特 選	小 田 中 藍	伊勢原市	動こうとしない山
	特 選	君 島 六 郎	横浜市	亀甲文扁壺
	美術奨学会賞	松 本 裕 代	江東区	中空の翼 01'
	美術奨学会賞	井 上 心 生	鎌倉市	鎌倉の咆哮
《 書 》	大 賞	和 田 清 泉	海老名市	花にのる
	準 大 賞	綿 貫 吉 野	葉山町	小林妙子の詩
	特 選	宮 川 勝 美	横浜市	戯書（趙翼）
	特 選	大 島 謙 介	横浜市	張喬詩
	特 選	田 端 蒼 秀	横浜市	蘇東坡詞
	特 選	平 松 千 恵 子	横浜市	沈佺期詩
	美術奨学会賞	山 下 雄 右	横浜市	和歌一首
	美術奨学会賞	川 手 敬 湖	藤沢市	新古今和歌集
《写 真》	大 賞	福 田 幸 子	横浜市	女瞳私1.2.3 (NUDE)
	準 大 賞	佐 藤 幸 一	横浜市	夏へ
	特 選	古 澤 直 代	横浜市	微風の夜 B
	特 選	今 野 良 一	横浜市	彼方へ
	特 選	馬 場 純 子	横浜市	ひとり
	特 選	堀 坂 和 夫	横浜市	後方支援
	特 選	森 屋 泰 光	藤沢市	抱擁
	特 選	嶺 岸 良 太	平塚市	Afternoon-Pollyの居場所 (I)~(IV)
	美術奨学会賞	石 川 真 士	三浦市	碧波富士
	美術奨学会賞	高 山 健 二	横浜市	おこぼれ頂戴
	県議会議長賞	榊 原 俊 寿	湯河原町	P a i n s

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。
 ※市町名は現住所です。

入選作品目録

《工芸》

内野 勝雄	青白磁鉢	野口 俊子	春うらら
村主 武	ペルシャ青磁釉・海	吉岡 末子	山の妖精
後藤 弘吉	結晶釉・波	鎌田 知幸	東雲
前原 祥子	色絵磁器・秋桜図 大皿と組皿	桑原 平治	油滴天目長角皿
安藤 和夫	神代楡厨子	一法師和晃	aya
今林三恵子	曇天	汐谷美樹子	機械からの声
天野 奈迦	紐飾	中嶋 千明	雪景群鶴文壺
糸井惣四郎	縄文譜Ⅱ	小田原達郎	鉄赤釉花器
金子三女子	野草染・秋の七草	坂本采季香	2001—明日へ
田辺美枝子	初夏の語らい	田中 康子	磁器手びねり人形・ひざし
中富 千世	野草染・尺四段箏笛	工藤俊太郎	備前壺
石川ヤイ子	菊	福島かおり	樹香
大澤 恭代	花霞	春日光太郎	星ふる街
鳥海 正次	窯変大壺	角村 治城	結晶釉壺・撩乱
前澤 秀知	斑唐津水指	木村 宏	鉄赤木の葉天目茶盃
能代真由美	重ねる	西山 義彦	輪花櫛目鉢
笹川 健一	一輪挿	小林 正光	峡谷
山下 龍二	乾漆盛器花	久保寺春男	備前壺
太田百合子	粉引茶盃	田上 憲一	曙
香取 孝彦	実り(crop)・花器	米澤昌一郎	志野水屋水甕
天野 孝子	ローケツ野草染・晩秋の柿	花形 澄子	In The Distance
村田 陽子	いろはにホ・ホ・ホ	水橋さおり	ZEBRA
松崎 峰夫	蕎麦釉捏ね鉢	平岩あき子	そよ風とわたし
渡辺 和子	蹟の響Ⅳ	安澤 教子	楽園のイヴアンジェリスト
福本 義彦	泰	猪本 洵子	備前壺
古根 香	月のかをり	石井 泰子	「気」の気配
安井 伸	天道虫の冬仕度	大原 乾資	はな
池田 節子	藍緋・ウェーブⅣ	宮部 礼子	ドリーム
若林 和正	磨研磁器・つきのかがみ	遠藤 寿子	風わたる
鈴木 亘	練上壺	宮原二三子	刺し子・中長はんでん
桑原 賢一	包	荒木 貞年	遙か
太下 直子	夕月夜	服部 純	乾漆・菱形十二曲盤
西岡 康雄	和紙染紋文鉢	山田 欽也	布目桜花文大鉢
斉藤三枝子	片口	原 雅憲	怪魚文鉢
萩原 隆雄	雪解連峰	佐野 伸司	青のバラード
山口 浩二	グランブルー 2001	松井 敏保	線紋白化粧壺
江良 柁子	巴鉢	山下 敦子	平和の灯
元木 光枝	トルコ	尾形 政子	褶曲

井上	恵介	樹皮紋灰釉扁壺
武石	良江	山の詩
乃木	吉之	偏容
川合	都美	過ぎし日
中田	久	竹一文字筒釜
今井	弘子	布の表情
寺本	沙香江	カーニバル

《書》

塩沢	鷺州	清滝川
笠原	映翠	子ども
岡本	光草	手向草
内藤	慧華	命
金澤	芝寶	涙
金井	瑤光	露草の
森口	浩子	かな一首
森	俊行	桑の葉
鈴木	良子	百人一首
浅間	静江	俳句二首（蕪村）
弦間	秀僊	和歌十首
田中	品悦	源実朝和歌四首
小沢	菖悦	祐子内親王家紀伊和歌五首
高山	畦亭	和哥四首
小川	悦彰	和歌三首
加藤	靖湖	清唱千首（塚本邦雄撰）
堤	耕一	明豊道生学書法（隸書）
三谷	富美子	朱竹垞詩・雨後即事
宮崎	菴瑤	曹植詩白馬篇
四季	茜歩	楊柳詩
今村	南茅	高適詩
片山	静苑	儲光義詩
矢島	初江	百人一首
藤田	紫琇	謝湫洲詩文公禪院
木多	緑舟	梨の花（枕草子より）
河又世	津子	すみなれし
吉野	蓬城	王維詩
畠山	千譚	曹植詩
川名	猛夫	鋏眼
館野	晨風	朱子詩
登坂	天夢	古詩
平田	由江	感懷
仁上	小葉	秋思
田辺	真知子	百人一首より
吉田	青粹	百人一首より
井上	澄江	山家集より
佐藤	青香	和泉式部集より
上永	青圓	古今和歌集より

筒井 節子 山家集より
伊藤 青光 新古今集より
中村 咲子 針切
書川 昌子 花のいろは
中村 清園 三峽橋
小野田孝子 次北固山下
大島 幽光 過香積寺
池田千鶴子 渡荊門送別
齊藤 知樹 高適詩
中村 雅枝 李白 謝公亭
新井 青谿 送薛大赴安陸他一首
山本 紅裳 唐詩二首
赤穂 恭子 石山切・貫之集
降旗 節子 香紙切
小島 静翠 浜千鳥
小林 華陽 秋
青野 有美 謝靈運詩
小此木采城 醉古堂劍掃語
河合 清風 陋室銘
菊池 佳石 東堪石室銘
岡崎 香芳 杜甫詩
松本 亘正 姚伯多造象記臨
尾崎 洋子 希
柴田 李笙 陶淵明詩
野頭 莊雲 張景松詩
石関富士子 寄梵川諸友
鈴木 莊鶴 孫燭溪舍人碧山樓圖
池田 莊春 常山縣
小山 莊雪 望嶽
田村 秀亭 漢詩
鈴木 天鳴 七夕妙高臺坐月
鈴木 静耕 棧道
渋谷 莊江 王維詩・山居秋暝
神藤 莊松 漢字
阿部 馨月 花橘
石原 玲春 麦の穂
市川 春聴 天の橋立
加藤 翠郷 陶淵明詩二首

杉山 堯俊 杜子美詩
神山 紅雲 張說詩 巡湖山寺
村上 湖翠 陳子昂詩
浅見 玲湖 宗之問詩
八十川悦子 与謝野鉄幹詩集より 入道殿のおもひもの
添田 紫苑 復世恩を送って鳥の字を得たり
板越 蒼龍 周欽来詩
西澤 憂 莫用嘉詩 登之和塔
小原 庭処 吳蘭雪詩 三首
中村 蒼碩 李平詩 蘇臺
庵 蒼 淵 王英詩 秋初有懷呈曾侍講彭修撰二公
飯田 容風 張繼詩
野澤 遊泉 王紱詩
長島 露泉 沈佺期詩
村松 美和 顧蒼詩
中町 祥紀 陶淵明詩
吉村 祥貞 王漁洋詩二首
川神 寛子 みちとせに
米澤千恵子 時として
内田 恵洋 しら雲の
佐藤 豊雪 むかし辺や
佐藤 友理 久方の
中村 暁雲 鄭燮之詩
鶴川 澗泉 皇甫湜詩
浅岡 菖迂 姜垓詩
土屋 景曄 謝迂柱詩
新 景 園 韓邦靖詩
南條 瑛果 方朝詩
関原 珪香 袁枚詩
佐藤 萱秀 邊黃詩
長野 文子 王維詩
濱崎 白萩 陶潛詩
藤野 善浦 王守仁詩
泉 心 百人一首
佐野 幸代 大貫裕司の風花
森田 新菜 三宅惟子のうた
栃木 郁子 串田孫一の詩 河鹿
堤 智子 三宅武治の詩 奈良

《写真》

古屋 恵美子	今辻和典の詩 草原賦	後藤 貞則	街の空間
平井 素未	赤木清香の歌	原田 健児	チューリップ
土屋 郁英	長谷川龍生の詩 パウロウの鶴	鈴木 喜久郎	自由な空間
青野 直子	田中冬二の詩 故園の菜	青木 静子	竹林の中へ
小林 千幸	大貫裕司の詩 故郷の駅	竹田 義彦	グロリオサの印象
指 簾 登美	鶴岡美直子の草々への祈り	志村 正夫	異粧
井上 綾子	斉藤茂吉のうた	山本 雄二	休息
福本 泰子	宮澤賢治の詩 風景とオルゴール	土屋 力	偵察飛行と急降下
大木 銀子	小林妙子詩 実り	米山 悦朗	いざ！ 勝負！
上野 春海	牟礼慶子の詩 ツグミの声	杉田 介伊	たびもん
八木 静香	井上靖の詩 向日葵	坂下 英三	光と影
三谷 麗月	野口雨情のうた	関谷 盛男	Design (五弁の白い花)
杉浦 右花	杜甫詩	斉藤 良一	炎の華
東山 右徹	李白詩	大曾根智之	朧月
菱田 右紫	李思衍詩	牟田 照子	夕日
松尾 右翠	李白詩	石井 昇	花日和
菊島 右雪	杜甫詩	高橋 好信	落日の詩
西川 右山	寒山詩	石田 慎一	灯 I、II
池田 青柳	杜甫詩	北原 實	朝影の林
天形 青遙	王漁洋詩	鈴木 正夫	ヒナ祭の日に
橋本 青玉	杜甫詩	山田 實	雲上界
鈴木 青秀	祖詠詩	佐藤 正美	静寂
風間 小羊	林鴻詩 秋夜憶周模	野村 朝治	遊雲
茶木 静萌	登泰山	今井 由佳	Spoil I、II、III
長澤 公雅	集吳子寺館	栗栖佐保子	ブランコの唄
藤原 星汀	杜甫詩	文野 克成	ゆりかごの中で
和田 静月	杜甫詩 登樓	野村 節弥	江ノ島のギャル
渡辺 悟竹	王守仁詩 別湛泉	根岸 邦江	丘の冬景
岩壁 勇弘	桐江 其三	関根 正男	幽流
木下 静朝	清平調詞	市川 正	ファイト
木村 晴雲	鄭世元	長澤 和正	朝霧燃える
小倉 寛葉	白居易詩 松聲	大友 洋子	夕暮の木立
竹内 栖涼	方朝詩	茂木 晤	雪雲迫る
明石 清子	春のはじめごろ	笹尾 敏子	夕翔
村山 ちい	ねのひ	中川 英治	樹影幽彩
鳥居 節葉	万葉歌 (抄)	斉藤ふさ子	花びら模様
杉森 玉園	万葉歌 (抄)	平松啓一郎	水底の秋
飯島 雪水	示姪孫伯安	有村 泰子	出を待つ・2

高木太三郎	夕映
木村 彰	老桜
山下 茂治	誕生2001 (A)
中川ケイ子	輝き
金子 直人	浸蝕岩頭
武田 幸容	みなと彩の音色
大出 光信	街角の顔
梶川 利行	群れ
桐畑 政義	きらめき
河村 伴江	黄金色の夕景
小泉 雄治	川原のにぎわい
古塩 政由	好奇心
内田 芳雄	捕食
木内 敏行	目眩 (十字架)
上條精一郎	春影
及川 竹男	剣客
鈴木喜三郎	街角のライブ
吉田 喜久	警世・生命の海 ①②
庄司雄一郎	山全て命の糧
伊藤 博	霜の造形
中間 知利	ツーショット
大畑 礼典	平成のニッポン人
山村 健志	新緑の湖
田中 久巳	イスタンブールの女
茂原 利夫	海に跳る
関口 利行	雉も鳴かずば撮れるまじ
高橋 礼子	踊る
小澤 朝夫	二人の世界
山田 三郎	未来都市
中山 亨	笠雲
中山 亜紀	朝の棚田
高木満喜子	夢幻
櫻木 順子	感動の大地 I、II、III
片岡 幸子	青春の戦い
小泉 隆正	カクテル
和田 實	午後の指定席
下井 良一	蜃気楼
高野二三子	舞台うらのピエロたち

井上喜和子	南部風物語
徳重 和子	扉
桜井 朗	画家の見た夢
長谷川雄二	ヒマラヤに生きる
保田 繁子	オブジェ
中井 昭夫	ラウンドマークタワー
萩谷 芳美	いなかのマリー
石川 和史	顔アート
沖 進	静寂
内田 享克	誘動
川村 利雄	静寂
古屋 光雄	眩光
長坂茂太郎	エミュー
有賀 由一	ジェットストリーム
安藤 肇	欠航の夕辺
小林 侑	ドア風情
本間 英夫	幽玄
よこいしょうじ	小雪の足あと
渡辺 富司	カシミヤを織る男
佐藤 敏恵	オーロラ
柴田 恒司	疾走
吉田 陽子	競技「オグラットタルチナ」
野瀬ゆき子	ちょっとスリリング
神田 誠	雨上がり
福居 寛美	Shonan Couple

審査経過

《工芸》

戦後日本の工芸界は、工芸家ないし工芸団体それぞれが、工芸に対する異なる考え方、制作を純化発展させ、昭和30年代、1950年代後半から1960年代前半にかけて、伝統・創作（日展）・クラフト・前衛という、いわば工芸地図を作り出した。

これは大正後半、1920年代に誕生した近代的な意味での個人作家的工芸制作がさまざまな試行錯誤の中で行き着いた先であり、以降の工芸界はその四つの傾向それぞれの成熟の過程として捉えられる。

こうした経過はアマチュアも含めて日本の工芸的な世界全体に反映し、各地で行われる県展の工芸、国民文化祭などでの工芸に反映している。

神奈川県展工芸部門もそうした傾向を反映するものの一つだが、ここでは他の大方の傾向よりも専門性、つまり前記の全国レベルの工芸地図の傾向を強く反映している。

言い換えればそれだけプロ性が強いということだが、その反映として、単なる産業的な実用品、おみやげ物的な個性の薄いものの出品が比較的少ない。

しかしプロ性が強いということは、それだけありきたりで、面白み、冒険性に欠けるということにもつながりかねない。実際、日展工芸部門ないし日本伝統工芸展の、その内部でしか通用しないような、非現代的な会派様式とでも言うべきものが相当目立っている。絵画ではない平面造形、彫刻ではない立体造形、現代を語れる実用器物、こうしたものももっともっとおおらかに制作・発表しうるのが、この種公募展の存在理由ではないだろうか。もっと広い芸術の世界全体、現代という時代全体に目を向けた澁刺とした制作を望みたい。

今回は応募点数が若干減ったが、受賞作品にも看取されるようにレベルが下がったわけではないからそうたいした問題ではない。むしろ大賞の羽鳥恵子「彩泥象嵌鉢」は轆轤による土の立ち上げのパワーがすっきりと整えられたフォルムの輪郭線によく示され、高質な表現を獲得している。鷹野のぶ子は前回美術奨学会賞を獲得したが、今回も「道草」で準大賞に輝いた。前回よりも動き、素材の捉え方などに進んだ境地がうかがえる。

特選4点のうち3点が染織だが、それぞれが工芸の趨勢を反映した手堅い作である。他一点は陶芸作品で、力強い亀甲文の扁壺である。

美術奨学会賞の2点のうち、井上心生「鎌倉の咆哮」は、タイトルもそうだが、作風もユニークなものである。陶芸は土の立ち上げのパワーで勝負する芸術分野であり、その点でこの作品はこれからの可能性を大いに感じさせる。もう1点の松本裕代「中空の翼 01」も同じように独特のパワーを感じさせるもので、前回に引き続き同賞を受賞した。素材・技法は従来の工芸そのものでありながら、それをどう捉え自分の表現にいかに関与するか、そのことで表現が新しく蘇るのである。

（金子賢治）

《書》

今年の書部門には、前回は37点上回る258点の応募作が寄せられた。審査は竹田悦堂氏をはじめとする7人の審査員が、一作ごとに1点から5点までを投じ、その合計点で争われたが、入選を果たしたのは22点以上という高得点を得た者と、まことにハイレベルの内容になった。この中からさらに高得点者にしぼって、大賞以下の授賞選考が行われた。まず類似書風の作品は、代表的な1点に絞ることで、さまざまな書風を網羅しようとした。そのうえで、各審査員が8点づつを賞候補として選びだし、その獲得票の多い順に大賞、準大賞、特選（4点）、美術奨学会賞（2点）が決まった。

大賞の和田清泉と準大賞の綿貫吉野は、最終投票ではともに7票の満票を得た。しかし、入落判定のための最初の投票で、和田の方に高得点が入っていたため、この順になった。和田の「花にのる」はいわゆる伝統的な仮名の仕事。線の太細のバランスに配慮したうえ、縦方向を重視した線の流れに、ところどころ停滞感を入れた書風は、今関脩竹（故人）のふうをうかがわせつつ、仮名の風雅を伝えてやまない。一方、綿貫の「小林妙子の詩」は近代詩文書。書燈社系の出品は今回も少なくなかったが、本作にはスケールと力強さが備わり、最も強く印象に刻まれた。

以上の二作に象徴されるように、神奈川県展の魅力は、伝統派、現代派が仲良く同居し、書という一点からの公平な審査がなされる点にある。特選の宮川勝美の隷書横物などは、出品作に類似の書風がなかったという点で、

独行者の気概にみちており、その鍛えられた技術に高い評価の声が集まった。同じく特選の大島謙介、平松千恵子、田端蒼秀の三氏はいずれも行草の作品で、複雑な筆を駆使し、あるいは表現のメリハリを効かせた表現に、安定した力量を示した。ちなみに前二者は大島崑山、吉田蘭處という、これまで神奈川の書道界を支えた先人を継ぐ人々。こうした層からの出品があったことは、本展の前途を約束するものだろう。

美術奨学会賞の2点、川手敬湖「新古今和歌集の歌」、山下雄右「和歌一首」はそれぞれ小字、中字の仮名。今回は臨書を含めて、伝統を踏まえた仮名の作品がかなり見られた。これも明記すべき今年の傾向と言っていい。古筆と自分との間にどのような創造の域を拓くことができるか。これこそ現代の仮名書が直面する大きなテーマだが、そこへの挑戦を射程に入れて、今後一層の精進を望みたい。

総じて今回の出品作には多様な書風が見られ、審査に参加していて楽しかった。神奈川という文化の進んだ土地柄であれば、日本の書のより幅広い書風を集めていいだけに、本県展が来年以降より開かれた書の祭典の場になることを期待したい。

(菅原教夫)

《写真》

近年の全国的な動向として、コンクール形式をとる公募写真展への応募者は、増加の一途をたどっており、神奈川県美術展写真部門の参加者数もこの動向と軌を一にしている。参加者の増加は、すなわち写真を楽しむ人口の増加なのだが、注目すべきは新たに写真制作に取り組む人々の層の広がり、写真表現の世界に柔軟さを吹き込んでいるという現象であろう。ここ10年余りの間にカメラの自動化や高級機種の高廉化が、中高年、女性の間に普及させた。その結果として、従来は男性主導型の技能とみなされがちであった写真の世界に、より多彩な表現のバリエーションを加えることになり、この波及効果が現代の写真表現全般をより豊かな方向へ向かわせている。

本年度の神奈川県美術展写真部門に寄せられた作品の数々にも、そうした傾向は現れており、女性、中高年層の力作が際立った。

第37回の大賞に輝いたのは、福田幸子氏の「女瞳私（おんなどうし）」と題された女性ヌードをモチーフとした幻想的な作品で、審査中は各審査員とも、この作品が昭和一桁世代の女性作品とは思ってもよらなかった。それほどまでに作品は生々しい弾力性と、新しい視覚表現のバランスがとれた作風であった。写真の表現には大別して二つの方向があり、ひとつは現実を率直に受け止め、それを客観的に撮るドキュメンタリー調の表現で、もう一方は現実を前提に、そこから美的な幻想性や秘められた魅力を掘り越す表現で、福田氏の作品は、どちらかといえば後者のなのだが、タイトルの「女瞳私」を“女同士”という音と重ね合わせると、同性から見る女性の身体フォルムの美しさということで、旧来のヌード作品とは違ったある種のドキュメント性が内包されているのかもしれない。

こうした公募展では、かつてはサロン調という用語で一括された伝統的ともいえる作風は、近年は以前に比べて少なくなったが、それに代わって形式に縛られない叙事詩を思わせる文学的ドキュメント作品が充実してきたように思われる。それは旧来の名作志向からの脱却を意味しているのだが、準大賞の佐藤幸一氏の「夏へ」もその路線である。特選の古澤直代氏も繊細な感覚から生み出されるデリカシーの成果でありながら、その色彩的、かつ視覚的大胆さは、写真という表現領域独特の面白さを示しており、また同じく特選の馬場純子氏の作品は、胸中をふとよぎる思いの視覚化に成功している。すべての受賞作を語る枚挙のいとまはないが、他に特に触れておくなら特選の堀坂和夫氏の「後方支援」と題された作品が、審査の過程で話題になった点であろう。自衛隊の演習に取材した同作品を、銃火器を操る訓練のドキュメンタリーとみるか、ドキュメンタリーというより風刺をこめた現代社会の不気味な一面とみなすか、意見が交わされたが、後者の見方として受け止めるのが妥当という結論となった。時事性のある作品としてユニークであるという評価だった。

(平木 収)

《工 芸》



【大 賞】「彩泥象嵌鉢」羽鳥 恵子

略歴 1981—滴翠美術館陶芸専攻科入学（近藤豊、岩淵重哉、甲本章人に師事）
1982—女流陶芸展入選、新匠工芸展入選
1990—横浜市金沢区に「工房けいてん」設立、絵画・陶芸教室主宰
1994—神奈川県美術展入選 以後毎年入選
1998—国際陶磁器フェスティバル美濃98入選
1999—朝日陶芸展入選
2000—日本伝統工芸展入選



【準大賞】「道草」鷹野のぶ子

略歴 愛知県に生まれる
1979—齋藤悦子に師事、神奈川県美術展、
日本現代工芸美術展に出品



【特 選】「輝くeye」小林 雅子



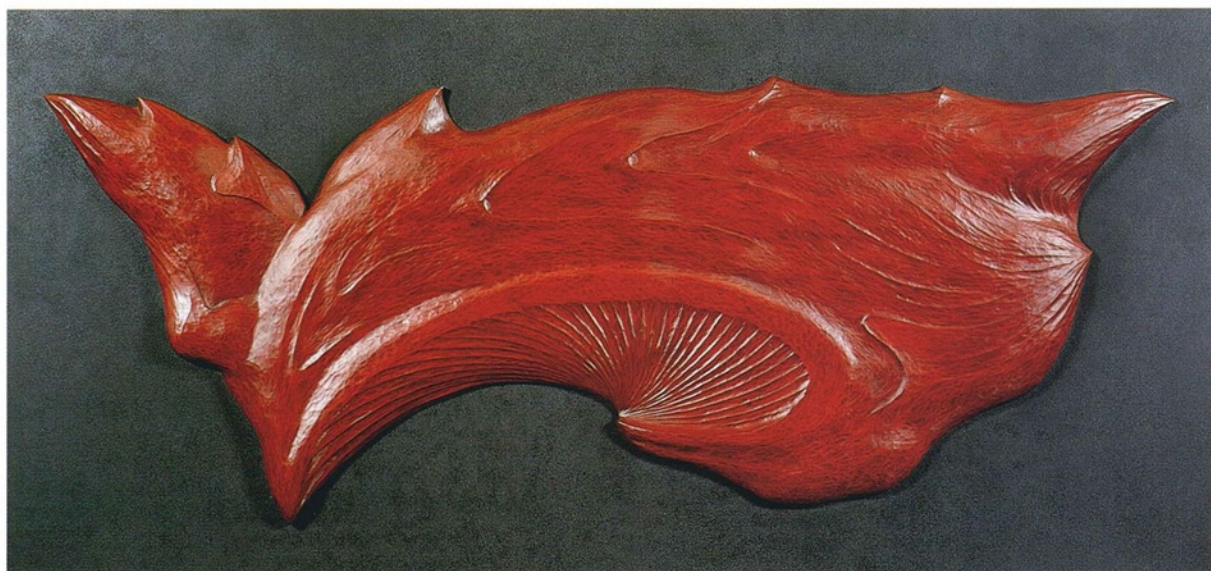
【特 選】「ゆりの木の黄葉」清水 晴子



【特 選】「動こうとしない山」小田中 藍



【特 選】「亀甲文扁壺」君島 六郎



【美術奨学会賞】「中空の翼 01」松本 裕代



【美術奨学会賞】「鎌倉の咆哮」井上 心生



【大 賞】「花にのる」和田 清泉

略歴 1989—齋藤紫香に師事
1996—神奈川県美術展 美術奨学会賞受賞
現在、読売書法会、藍笥会

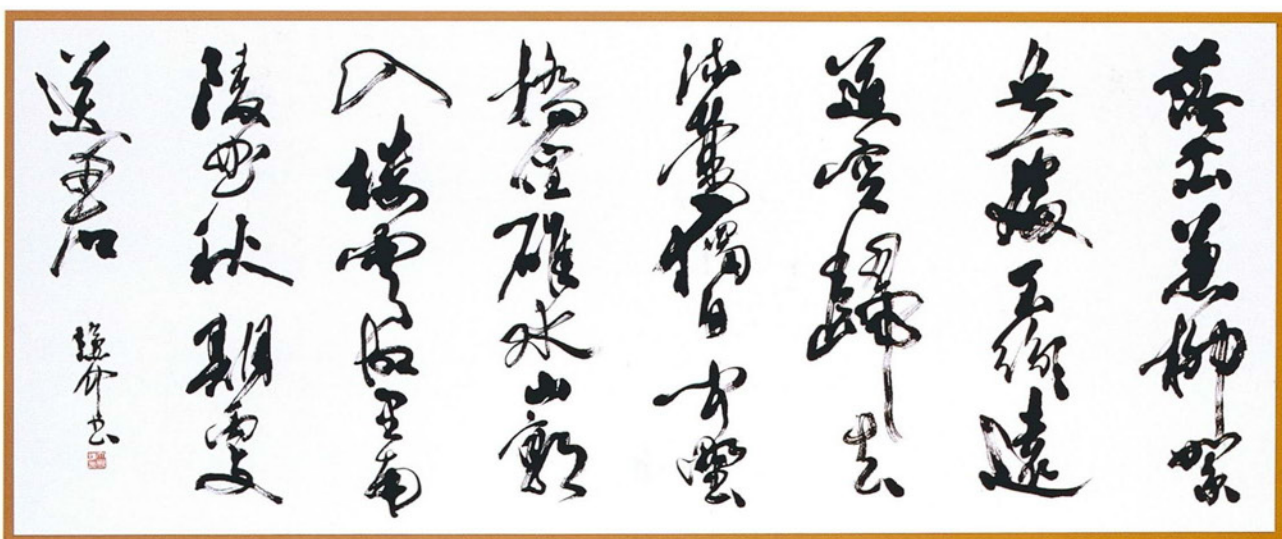


【準大賞】「小林妙子の詩」綿貫 吉野

略歴 1979—書燈社 船本芳雲に師事
1992—神奈川県美術展 特別奨励賞受賞
1995—毎日書道展 会員昇格



【特選】「戲書(趙翼)」宮川 勝美



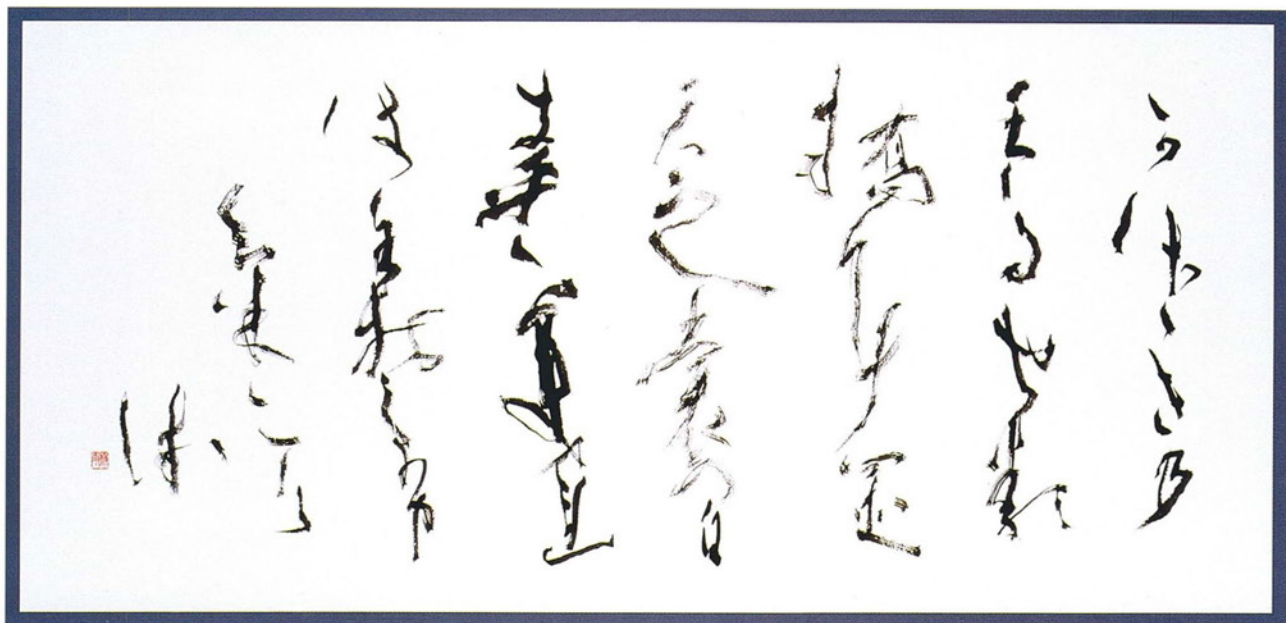
【特選】「張喬詩」大島 謙介

明月幾時有。把酒問青天。不知天上宮闕，今夕是何年。我欲乘风歸去，又恐瓊樓玉宇，高處不勝寒。起舞弄清影，何似在人間。
 轉朱閣，低綺戶，照無眠。不應有恨，何事長向別時圓。人有悲歡離合，月有陰晴圓缺，此事古難全。但願人長久，千里共嬋娟。
 蘇東坡詞 田端 蒼秀

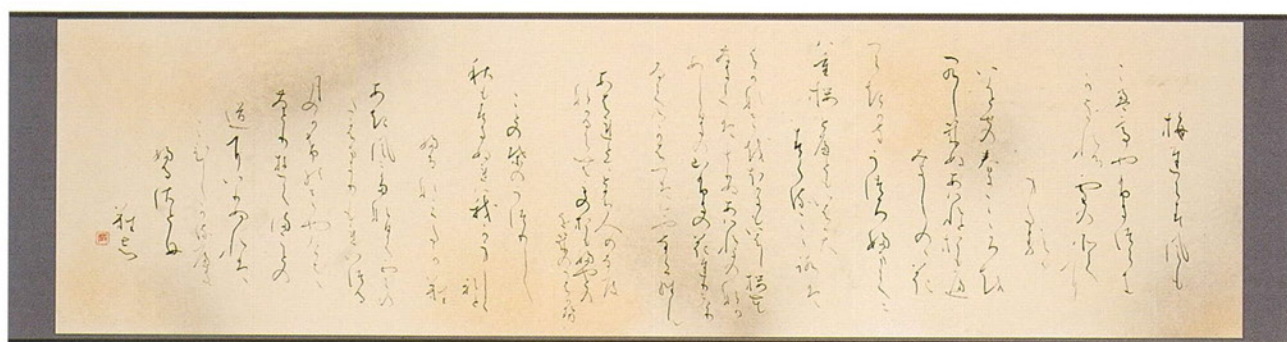
【特選】「蘇東坡詞」田端 蒼秀

紅樓夢見白毫
 先書過客居
 瑞獸唐文道愛
 此詩漫切雲摩
 泛海路宜長
 狂醉一夜思
 向更語壇氣
 晨歸梅山香
 誰謂此中難
 劉白華深院
 獨回翔

【特選】「沈佺期詩」平松 千惠子



【美術奨学会賞】「和歌一首」山下 雄右



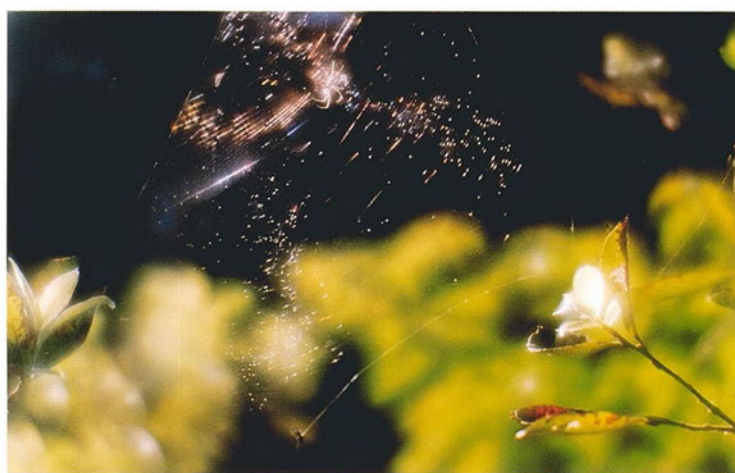
【美術奨学会賞】「新古今和歌集」川手 敬湖

《写 真》



【大 賞】「女瞳私1.2.3 (NUDE)」福田 幸子

略歴 1933—東京都日本橋に生まれる
1975—東京デザインスクール グラフィック・デザイン科卒業
写真家杉本直也に商業フォトを、
小川勝久にデジタルフォトを学ぶ
1993—神奈川県二科会大賞受賞
1996—神奈川県美術展 美術奨学会賞受賞
1999—神奈川県美術展 特選受賞



【準大賞】「夏へ」佐藤 幸一

略歴 1953ー 横浜市に生まれる
 1995ー 風景写真を始める
 2000ー 第36回神奈川県美術展入選
 2001ー 第33回神奈川二科展入選
 第24回神報連公募展入選



【特 選】「微風の夜 B」古澤 直代



【特 選】「抱擁」森屋 泰光



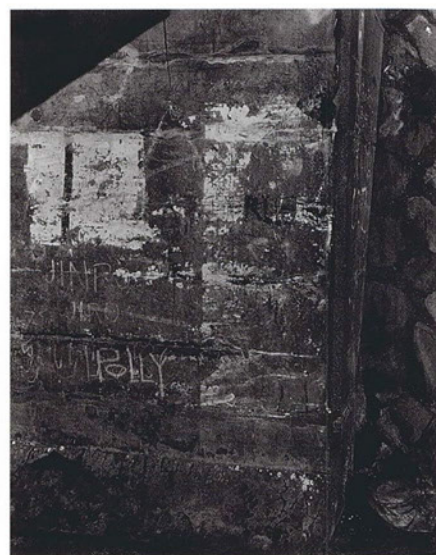
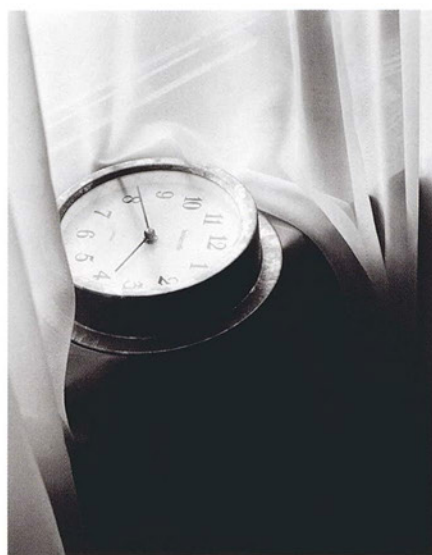
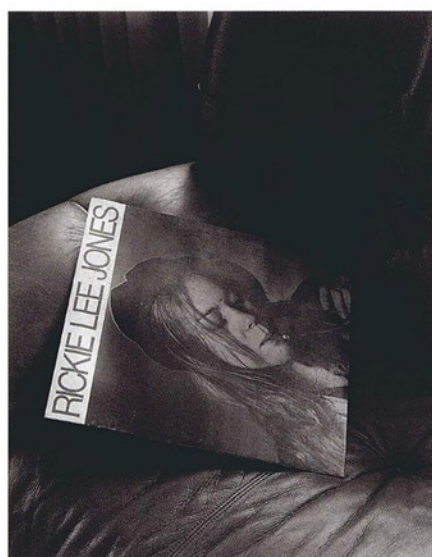
【特 選】「ひとり」馬場 純子



【特 選】「後方支援」堀坂 和夫



【特 選】「彼方へ」今野 良一



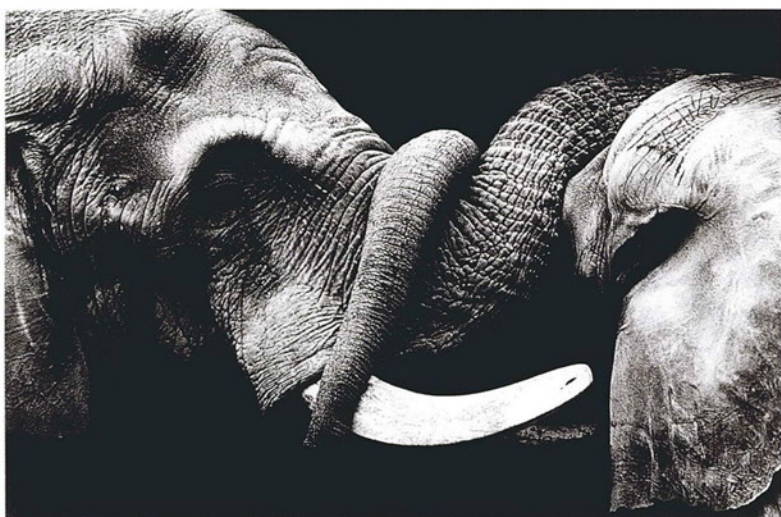
【特 選】「Afternoon-Pollyの居場所（Ⅰ）～（Ⅳ）」嶺岸 良太



【美術奨学会賞】「碧波富士」石川 真士



【美術奨学会賞】「おこぼれ頂戴」高山 健二



【県議会議長賞】「Pains」榊原 俊寿

2期展

平面 立体

受賞作品目録

《平面 立体》	大賞	小林 秀 幹	八王子市	静かな流れの中で
	準大賞	上 杉 香 代 子	横浜市	無情
	特選	水 谷 一	座間市	Shibuya Tokyo
	特選	大 工 公 司	逗子市	E.W.I.B.P.O.I 5
	特選	小 山 祥 吾	横浜市	根幹機
	県立近代美術館賞	西 国 学	横須賀市	山
	美術奨学会賞	辻 元 子	鎌倉市	痕跡 V
	はまぎん財団賞	ほんごう めぐみ	相模原市	パターン
	U 氏 賞	滋 田 明	相模原市	街の植物園 I

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。

※はまぎん財団賞は、(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される賞です。

※U氏賞は、今回神奈川県美術展委員会の上野委員長が私財を提供して新たに新設された賞で、神奈川県美術展に出品された作品の中から独創性に富んだ優秀な作品に対して給付される賞です。

※市町名は現住所です。

入選作品目録

《 平面 》

藤崎 淳子	光の感触 II	萱野 恒代	9月15日
鶴飼しをり	花の譜 II	前田 啓子	とりこ'01 a
杉浦 えみ	Andante	田口 弘勝	空の唄
真木 欣一	喧騒のベトナム	吉池さとみ	Work (echo) II
丸谷 洋子	PLACE I	安田 文夫	LIVE IN CHIGASAKI
大籠 弘子	作品 II	津國 浩一	積み木のメルヘン
高山洋一郎	霞山	山岸美恵子	窓
菅沼 稔	Paraphrase・189	雙田 実	大河幻想
今井李々子	無題 2001-I	根本 美恵	ミズカガミ
千葉 和雄	作品 B (アンダンティーノ)	渡辺 幸子	過ぎ去りし日II、2001
木内 敏行	落ちていく5の横で歪む四角形	久保 恵子	ゆ・ら・ぎ
市川 敏夫	混沌	秀島 育子	ひと・かおXXI La France
有賀 孝子	私は私 II	志沢 和子	作品01-1
豊崎 旺子	TRAIL-II	玉生 一江	太陽へのご挨拶
佐々木朋子	Scherzando, H	石井 泰彦	大黒埠頭
石井 春江	遊夏	西川 則夫	タイムマシンでテラフォーミング
小林 敦子	火の鳥・シチリア	柴田 豊	都会 一赤一
藤井浩一郎	無題 (NO. 21-8)	萩原 知子	木馬水と木馬蜜②
白井 早苗	立葵の頃	石原 誠	赤い器
角森 昭収	誤読	吉見 律子	can you see
澤田 サチ	睡魔の刻 (II)	田家ハルミ	春の夢 II
平林 英一	香港の始まり (1842年) (III)	森田 綾子	刻
中山 智介	密やかな激しさ	川城 夏未	Balance 2001-NO. 2
水村 繁	刻む A	亀山 治代	拠点 I
白井 勝宏	NO. 1 有無	加藤 敏夫	日輪燦燦-悠久-
池上あつこ	聚 I	青木明日香	朝のひびき
小沢 優子	饒 II	田中 信男	現代人
上野 真由	Phúcのいる場所、私の在る場所、そしてその底にあるもの	倉島 敏子	一遇の風景 NO. 2
細川 貴子	夏に見た沼	關 明義	融ヶ合フトイフコト
土屋 雅敬	あとかた一回路	広野 正	老桜樹
佐藤 靖子	Woman II	岡本 浩二	ヘイ! パーニー
池田 周三	突然の出来事	瀬尾きみ子	時間・移行-012
久保 敬子	生きるチカラ	平井 和穂	街
片岸かほる	いいでしょ? この日傘	額賀 和子	海へ
木村 真彦	砂漠奇行より 風化	徳田健一郎	The Lucky Dragon
望月 康生	さらば青春の光	吉田 純子	Dance
服部佐紀子	存在と時間 (8枚組)	増川 朋花	はきだすもの
箕輪香名子	a vision corner	三好 正人	benthos-蠡

安田里栄子 under the moon light
 根本 雅行 Simple Plan A
 佐藤千寿代 間 (あいだ)
 柏原 裕子 growing heaven
 元木 秀信 私の中の住人達
 西山 和子 覚醒
 宮本 厚子 スケッチ
 武田 律子 「現」作品10
 吉村 朝丈 黒い壁
 伊藤 彰規 blue times in the blue land-I
 高橋 秀幸 作品<M-0101>
 小嶋 康弘 レクイエム (救いはあるか)
 香月由紀子 しあわせの小道
 原澤 泰子 刻 (II)
 黒川 洋 造成地 I
 谷川 悦子 幻影
 鎌田世津子 黄色の習作 (公園にて)
 水野智雅子 線のある構図
 オノ・ヨシヒロ Work-01-NO. 2
 佐藤 潔 出現・颶 (typhoon)
 嶽 喜代子 再生
 竹村 芳樹 青と赤／赤と青
 大矢 高弓 造 つくる
 新恵美佐子 花
 島田 正紀 湿原
 条 智子 草原の少女
 鈴木 陽子 青いゴミ箱

《立体》

安室 三郎 bubble (バブル)
 山本 秀明 内壁層
 小川 徹也 縁 (えにし)
 豊島さち子 Balanche Balle-15
 野末 明宏 太刀塚の蟬
 矢部 裕輔 無月
 辻 真由美 月にある棘のようなもの
 中島 庸介 ピザ十字
 山本 重隆 ORGANISM
 生越麻紀子 鳥籠を持つ人
 山本 咲子 ランナーズ (胎動)
 姚 斌 過程

審査経過

《平面 立体》

今回の審査は正直なところ少々難航した。入選作品、受賞候補作品の選定までは比較的スムーズに進んだが、大賞をはじめとする諸賞の決定の段階で、ことごとく審査員の意見が割れてしまったのである。判定の基準がそれぞれに異なるというのは当然といえば当然ではあるが、これほどまでに一致しなかったのは、私の経験からしても珍しい。それだけ傾向が多様であったということもできるだろうし、逆にいえば全体の質はかなり高いにせよ、誰の目にも歴然と傑出したものがなかったということでもある。立体作品の方にやや”覇気”が感じられなかったのは残念に思う。もっとも大賞は立体作品に与えられているように、個別には面白い作品が見られるのだが。

何度かの投票を繰り返して辿り着いた結果について、私なりに講評しておこう。

大賞の小林秀幹の「静かな流れの中で」は、銅板による舟形の作品で、赤茶けた素材の独特の感触がうまく生かされている。私たちはこの寓意の器ともいうべき舟を前にして、さまざまな想いを誘われることになるだろう。一見荒々しい造作だが、背後には作者の思索の深さが感じられる作品である。

準大賞の上杉香代子のタブロー「無情」も、極めて寓意的な作品である。工事現場の光景のような設定だが、よく見れば人型のモチーフがひそんでいるのだ。

現代社会での不条理な拘束感を捉えたイメージといえようが、綿密に描きこまれたディテールが、その感覚により不穏なポエジーを与えているように思われる。

特選の大工公司の作品は、緑色、青色系の少しづつ色調の異なったストライプで埋め尽くされた画面である。ミニマル・アートのといってもよいシステム的な方法を採用ながらも、そこには作者の繊細な感受性で支えられた、清々しくもまたエレガントな空間が立ち現れているのが印象的であった。

同じく特選の小山祥吾の「根幹機」は、タイトル通り根のイメージを金属塊にして吊り下げたものだが、その有機的な形態は臓器を、あるいは裸形の動物を連想させなくもない。奇妙な生命感をもった造形へのこだわりが、この作品にどこか官能的でもあるインパクトを与えているのである。

もう一点の特選、水谷一の「Shibuya Tokyo」は、大画面を俯瞰する町並みの光景でびっしりと埋め尽くしたドローイングである。徹底した反復による空間充填の方法と、柔軟な流動性をもったドローイングの方法とが一体化した、不思議な魅力をもった作品といえよう。オールオーバーに拡散した構成でありながらも、方向性を秘めた揺らぎやリズムが感じられ、画面は少しも弛緩していない。この画家のユニークな資質は特筆されるべきである。

(建畠 哲)



【大 賞】「静かな流れの中で」小林 秀幹

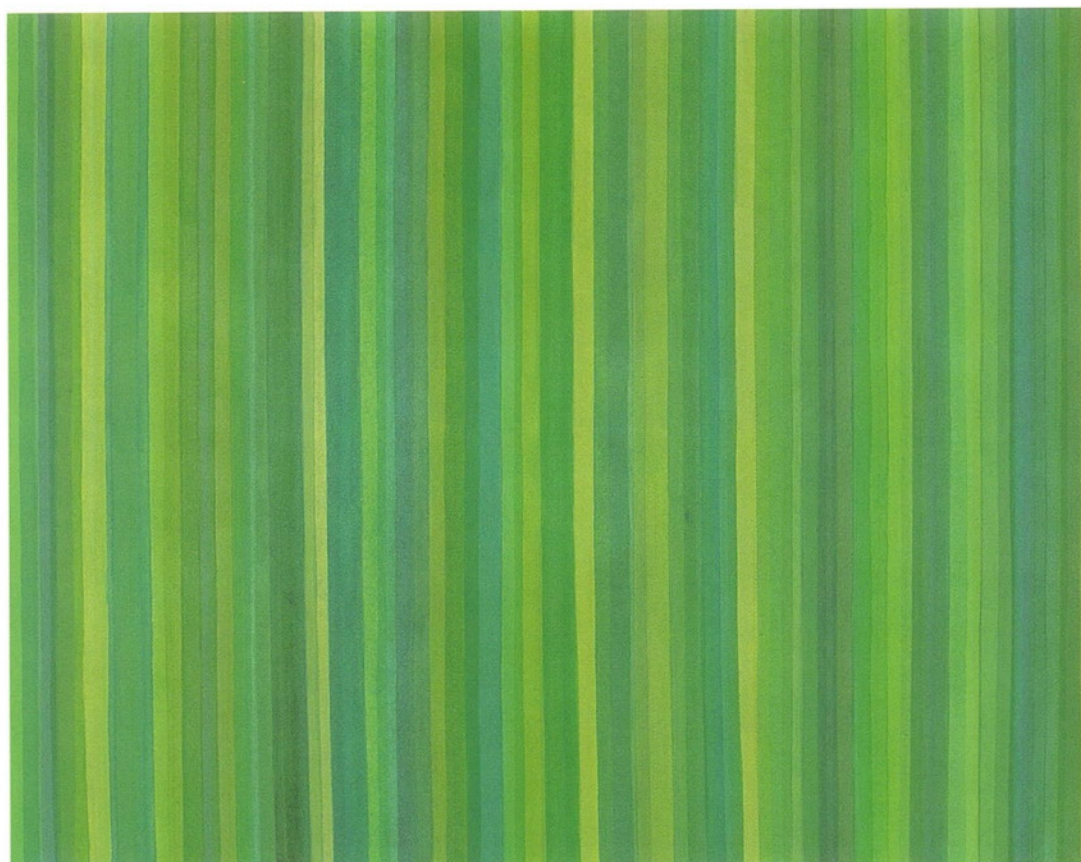
略歴 1971ー長野県に生まれる
 1998ー多摩美術大学大学院美術研究科
 デザイン専攻修士課程修了
 個展 2000ーGalleryあーきてくつ
 コバヤシ画廊
 2001ーPepper's gallery

グループ展 1996ーGlass & Metal Exhibition、スパイラルガーデン
 Eat The Blue, Pepper's Gallery
 1997ー明かりのオブジェ展、O美術館
 神奈川県美術展入選
 1999ーBOX ART展、Gallery IN THE BLUE
 神奈川県美術展 特選
 ものづくりコンテスト 奨励賞
 くらしのなかのかなもの展、Gallery IN THE BLUE
 小さな彫刻展
 2000ーBOX ART展、Gallery IN THE BLUE
 神奈川県美術展入選
 2001ーBOX ART展、Gallery IN THE BLUE



【準大賞】「無情」上杉 香代子

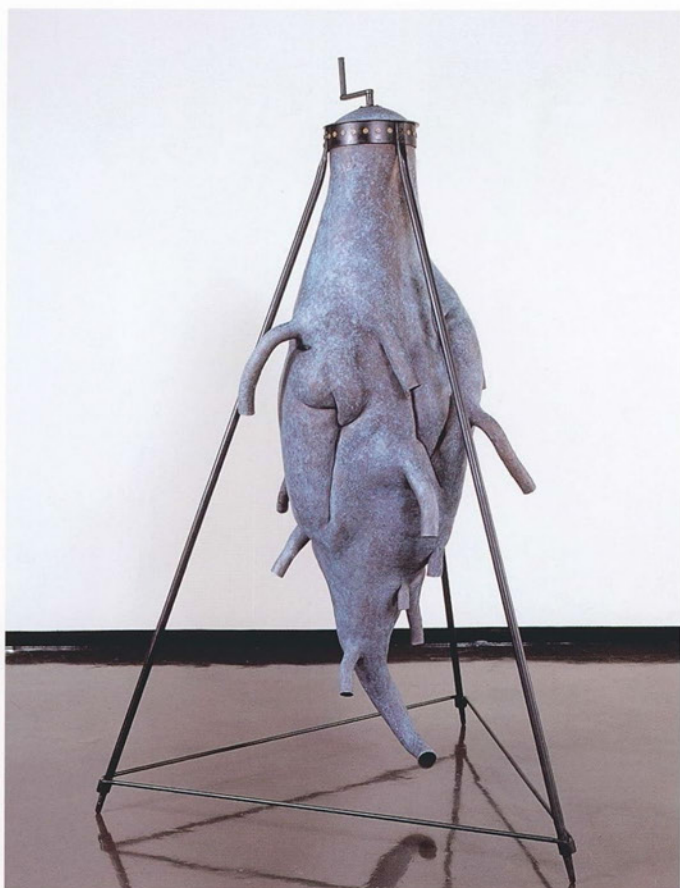
略歴 1941—大阪に生まれる
1995—雙田実に師事
1997～2000—ハマ展入選
2000—県女流展入選



【特 選】「F.W.I.B.P.O.I 5」大工 公司



【特 選】「Shibuya Tokyo」水谷 一



【特 選】「根幹機」小山 祥吾



【県立近代美術館賞】「山」西国 学



【美術奨学会賞】「痕跡Ⅴ」辻 元子



【はまぎん財団賞】「パターン」ほんごう めぐみ



【U氏賞】「街の植物園 I」 滋田 明

市町村別出品者一覧

	平 面	立 体	工 芸	書	写 真	合 計
横 浜 市	93	9	76	112	138	428
川 崎 市	23	2	20	16	18	79
横 須 賀 市	12	2	5	14	13	46
藤 沢 市	12	2	8	15	17	54
茅ヶ崎 市	9	1	2	5	1	18
平 塚 市	6		4	2	6	18
鎌 倉 市	16		13	38	11	78
逗 子 市	4	1	3	5		13
三 浦 市	2		1	1	4	8
相 模 原 市	14	1	8	16	10	49
厚 木 市	4		4	3	4	15
大 和 市	4	1	4	4	5	18
伊 勢 原 市	2		2	2	5	11
秦 野 市	1		1	2		4
座 間 市	4		3	1	4	12
海 老 名 市	4	1		3	2	10
綾 瀬 市	1			1	2	4
小 田 原 市	3		12	6	2	23
南 足 柄 市	2					2
葉 山 町	1			1	2	4
寒 川 町	2		2	1		5
大 磯 町	1		2	3		6
二 宮 町	3	1	1	1		6
中 井 町						0
大 井 町						0
松 田 町						0
山 北 町						0
開 成 町						0
箱 根 町			1			1
真 鶴 町						0
湯 河 原 町				1	1	2
愛 川 町			1			1
城 山 町					1	1
津 久 井 町	2		1			3
相 模 湖 町				1		1
藤 野 町						0
清 川 村						0
県 内 計	225	21	174	254	246	920
東 京 都	13	1	5	3	2	24
その他道府	2	0	2	1	1	6
県 外 計	15	1	7	4	3	30
合 計	240	22	181	258	249	950

市町村別入選者一覧

	平 面	立 体	工 芸	書	写 真	合 計
横 浜 市	35	6	34	77	59	211
川 崎 市	10	1	10	10	8	39
横 須 賀 市	5	1	2	10	6	24
藤 沢 市	5	2	6	10	6	29
茅ヶ崎 市	4		1	3	1	9
平 塚 市	2		2	2	2	8
鎌 倉 市	9		4	13	7	33
逗 子 市	2	1	1	2		6
三 浦 市	1		1	1	3	6
相 模 原 市	11	1	5	11	5	33
厚 木 市	3		3	3	2	11
大 和 市	2	1	2	3	4	12
伊 勢 原 市	1		2	2	2	7
秦 野 市				1		1
座 間 市	3		3			6
海 老 名 市	2			2	1	5
綾 瀬 市	1				2	3
小 田 原 市	1		7	3	1	12
南 足 柄 市	2					2
葉 山 町				1	2	3
寒 川 町			1	1		2
大 磯 町	1		1	1		3
二 宮 町	2	1		1		4
中 井 町						0
大 井 町						0
松 田 町						0
山 北 町						0
開 成 町						0
箱 根 町						0
真 鶴 町						0
湯 河 原 町					1	1
愛 川 町			1			1
城 山 町						0
津 久 井 町						0
相 模 湖 町						0
藤 野 町						0
清 川 村						0
県 内 計	102	14	86	157	112	471
東 京 都	7	1	3	2	0	13
その他道府	0	0	2	1	0	3
県 外 計	7	1	5	3	0	16
合 計	109	15	91	160	112	487

出品点数一覧表

	平 面	立 体	小 計	工 芸	書	写 真	小 計	合 計
人 数	240人 (109)	22人 (15)	262人 (124)	181人 (91)	258人 (160)	249人 (112)	688人 (363)	950人 (487)
点 数	413点 (110)	25点 (15)	438点 (125)	239点 (91)	258点 (160)	809点 (171)	1,306点 (422)	1,704点 (547)

※()内は入選者数と入選点数

大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 運夫	『九十九里』 日本画
第2回	41年度	廣瀬 義男	『作品Ⅰ』 洋画
第3回	42年度	垣内 治雄	『坐る』 彫刻
第4回	43年度	川村 直子	『'69-A・'69-B』 洋画
第5回	44年度	山井イク夫	『Laby 70-1・2』 立体造形
第6回	45年度	伊藤 彬	『天涯巡礼』 日本画
		大久保利罔	『Straw』 工芸
		西川 万象	『盧子諒詩』 書
		加賀谷武男	『につぼんNONSENSE ZONE』 写真
第7回	46年度	中西新太郎	『落日』 洋画
		島津 碧崑	『寒山詩』 書
		大谷 正夫	『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』 写真
第8回	47年度	佐々木英夫	『人間の風景1・2』 版画
		林 良達	『騎士』 工芸
第9回	48年度	河原 明	『蜻蛉』 彫刻
		石川 充宏	『Girl in chair』 工芸
第10回	49年度	大山 鎮	『語り』 日本画
第11回	50年度	鎌田 恵子	『Lost my way』 工芸
第12回	51年度	泉谷 淑夫	『愁傷のモニュメント』 洋画
第13回	52年度	井上 麦	『黒の女- '77』 彫刻
第14回	53年度	坂田 一之	『MIRROR』 立体造形
第15回	54年度	前本 利彦	『暗い部屋Ⅰ・Ⅱ』 日本画
		川口 流坡	『菅原道真詩』 書
第16回	55年度	和久井Who	『HANGING』 立体造形
		市原 欣一	『ふるさと』 写真
第17回	56年度	坂井 彰夫	『SEISHO』 彫刻
		高木 参平	『BODY』 工芸
第18回	57年度	小泉 正彦	『冬の木』 洋画
		井上 隆敏	『イグナドバ選手』 写真
第19回	58年度	井上 麦	『土の系譜』 彫刻
		茶木 静谷	『竹簾松影』 書
第20回	59年度	東谷 武実	『日蝕F』 版画
		西 雅秋	『CASTING VIEWPOINT』 野外彫刻
		林 亘	『クリスタル大鉢“洞”』 工芸
第21回	60年度	鶴見 厚子	『夢の質感』 洋画
		石渡 四郎	『硫黄島の再会』 写真
第22回	61年度	会田富二男	『駆けゆく母子像』 彫刻
		浜本 艸舟	『良寛詩』 書
第23回	62年度	高橋 洋子	『WAVE(BLUE FENCE)』 立体造形
		森山 可余	『俳句(原石鼎)』 書

第24回	63年度	三枝 孝司	『複製された場所』 版画
		管間ゆみい	『夢印象』 工芸
第25回	平成元年度	セツ・スズキ	『アンタニアワカルメ』 彫刻
		片岡 順一	『大気現象』 写真
第26回	2年度	山本 靖久	『時の化石ー豊沃のかたち』 洋画
		高橋あづま	『遙かなる亜熱帯』 工芸
第27回	3年度	荒井 正美	『蟻の迷走』 彫刻
		相沢 順一	『樹界』 写真
第28回	4年度	たべけんぞう	『MAGNETIC FIELD 92-2』 立体造形
		中森 万象	『郎士元詩』 書
第29回	5年度	王 青	『チベットの娘』 日本画
		平野 朱美	『電解ザウルス』 工芸
第30回	6年度	辻 忍	『野辺』 彫刻・立体造形
		八木 香葉	『笹澤美明詩 菊』 書
第31回	7年度	R 津田	『封印ー過去と未来ー』 彫刻・立体造形
		中田 文	『阿弥陀堂釜』 工芸
第32回	8年度	結城 勉	『個々の領域ー群像Ⅱ』 平面・立体
		今井今日子	『Twilightー黄昏ー』 工芸
		中西 雅舟	『百人一首より』 書
		中谷 晴男	『山の民(ネパール)』 写真
第33回	9年度	劔持 啓子	『SANAGIー予兆』 平面・立体
		村田 則子	『レクイエム』 工芸
		島田 幸舟	『白鳥』 書
		渡部 満	『1.8 朝』 写真
第34回	10年度	笹井 弘	『動植物』 平面立体
		堀口 成依	『M!! きみ想う』 工芸
		大岸 昌子	『源氏物語』 書
		君塚 宣良	『還暦を迎える階段』 写真
第35回	11年度	川田 祐子	『BIOーPANORAMA』 平面立体
		齋藤 龍也	『白化粧象嵌花器』 工芸
		稲葉 竹苑	『観雨』 書
		林 京子	『午後の街』 写真
第36回	12年度	川城 夏未	『Balance 2000 No.1』 平面立体
			『Balance 2000 No.2』
		深瀬知嘉子	『陰翳』 工芸
		松原 隆	『白の風景』 書
		吉田 陽子	『最後の楽園(ガラパゴス)』 写真
第37回	13年度	小林 秀幹	『静かな流れの中で』 平面立体
		羽鳥 恵子	『彩泥象嵌鉢』 工芸
		和田 清泉	『花にのる』 書
		福田 幸子	『女瞳私1.2.3(NUDE)』 写真

もっと近くに、ずっと一緒に。



Good for you
CERTE

〒231-0016 横浜市中区真砂町3-33 (JR・地下鉄関内駅前) TEL 045-651-1431 (代)

プロのために、
プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

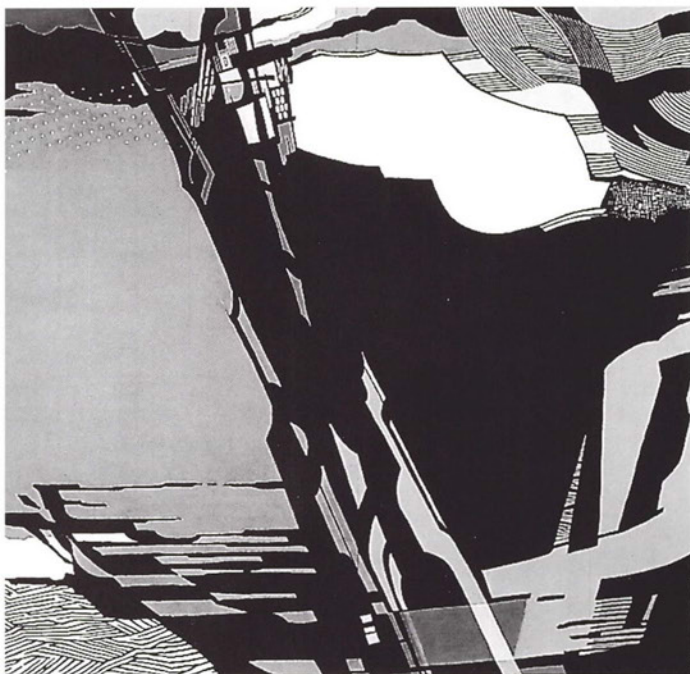
- 本店文具館 イセザキ町・本店文具館4F・5F…TEL.(045)261-1231
- ルミネ横浜店 ルミネ5F……………TEL.(045)453-0811
- 藤沢店 藤沢駅南口名店ビル2F……………TEL.(0466)26-1411
- 厚木店 小田急線・本厚木駅前……………TEL.(046)223-4111

有隣堂ギャラリー〈イセザキ町・本店書籍館B1〉

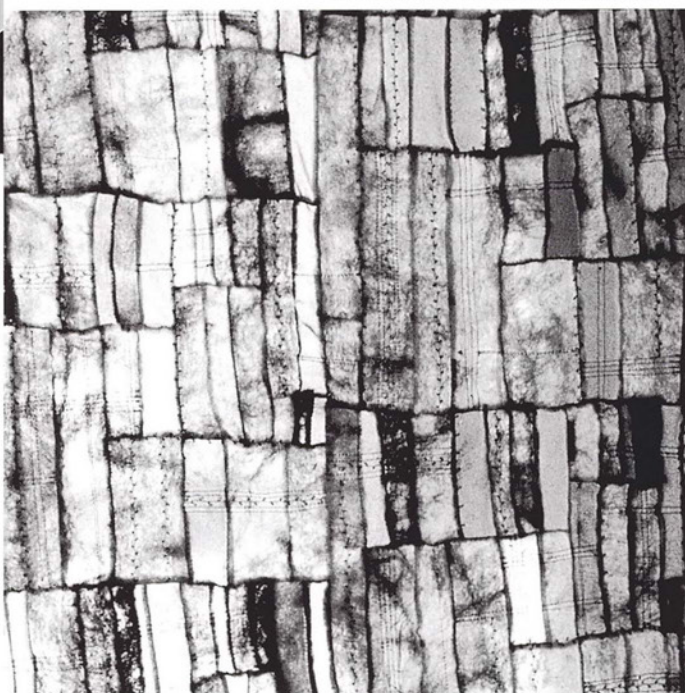
《個展・グループ》申込み承り中 ※お申し込み・お問い合わせ…有隣堂宣伝広報室 ☎(045)825-5507

布と遊ぶ

岡田ゆう子 (2000年3月工芸染織科卒)。
第39回日本現代工芸美術展入選。卒業
製作「斜影」



真野沙織 (2000年3月テキスタイル
デザイン科卒)。ジャパンテキスタイル
コンテスト99審査員特別賞受賞。



◎願書受付 推薦入学 10月1日～1月31日
一般入学 11月1日～3月31日

◆学科構成

テキスタイルデザイン科 (昼3年)
工芸染織科
友禅染色コース (昼2年)
伝統織物コース (昼2年)
プリンティングデザイン科 (夜2年)
ウィービングデザイン科 (夜2年)



学校法人 大塚学院

大塚テキスタイルデザイン 専門学校

〒160-8560 東京都新宿区須賀町10番地 ☎03(3357)3671 (代)

Multi Media

CD-ROM
DVD-ROM
オーサリング

Digital
Graphics

Web

コンテンツ
HP
PDF画像

Digital
Graphics

MacDTP
WindowsDTP
Data Base

Paper Media

オフセット印刷
UV印刷
Color
OnDemand
(少数のカラー印刷)

Sales
Promotion

販売促進
販売支援

UV(紫外線)印刷による
ビニール・ポリエチレン
プラスチックカード等への印刷

Publishing

自費出版

「日本自費出版文化賞」創設
自費出版ネットワーク会員
「自費出版ホームページ」の申込みも

デジタルグラフィックスで

ITを支援する。

当社はISO9001認証取得とともにデジタルデータの活用を通じて企業のIT化をサポートする
印刷のデジタル化“Digital Graphics”を他に先駆け推進してきました。
これまでに培ってきた高度な情報処理力でお客様の期待に十分お応えします。

ISO 9001 認証取得

野毛印刷

本社／横浜市中区相生町5-79 〒231-0012

☎(045)681-0861

営業企画本部／横浜市内南区新川町1-2 〒232-0027

☎(045)252-2511

ホームページ <http://www.noge.co.jp>

- 業務効率の向上
- 納期の短縮
- 経費の節減

馬車道の印刷ショップ 株式会社 アトラス ☎045-641-4132

クリエイティブスタジオ 株式会社 acb ☎045-201-8263

第37回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成13年9月18日現在)

顧問

近藤 弘明
井上 信道
圓鐔 勝三
蓮田脩吾郎
菅原 寿雄
中原 佑介
吉田 耕三

工芸

赤堀 郁彦
大角 勲
金子 賢治
川尻 一寛
鈴木 三成
中村 光哉
根来 茂昌

神奈川県美術展委員会

委員長 上野 豊
委員 神戸 由雄
海老塚耕一
大矢 紀
岡本 敦生
建畠 哲
田中 稔之
柳生不二雄
赤堀 郁彦
江成 常夫
島津 碧岳
溪口 幽城
土田ヒロミ
中村 光哉
蔵 隆司
黒川 雅夫

書

秋山 撫城
石川 芳雲
齋藤 紫香
菅原 教夫
竹田 悦堂
溪口 幽城
茶木 静谷

写真

江成 常夫
大河原雅彦
竹内 敏信
土田ヒロミ
常盤とよ子
浜口タカシ
平木 収

審査員

平面 立体

飯田 善國
大矢 紀
岡本 敦生
建畠 哲
辰野登恵子
野田 哲也
山梨 俊夫

第37回神奈川県美術展

発行●財団法人神奈川県芸術文化財団 ©2001

神奈川県民ホールギャラリー

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

TEL.045-633-3687

撮影・株式会社菊屋写真工房●大橋一彦

表紙・本文デザイン・制作●株式会社野毛印刷社

発行●2001年9月18日

